



持続可能な世界に向けて好循環を生み出す人のあり方・学び方・働き方～
ウェビナーシリーズ第3回

「国連・ESDの10年」の経験を活かし、探究の 高度化・自律化をデザインする

2022年3月9日(水) 18:00—20:00

【17:50から「入室」受付】

講演

事例報告

佐藤真久

東京都市大学大学院
環境情報学研究科 教授

上野智央

一般社団法人
東松島みらいとし機構

熱海 良彦 校長

川網 義朗 5年生担任
東松島市矢本東小学校

コメンテーター：**大庭 雅寛** 東北大学環境科学研究科 特任准教授

概要

平和で、公正で、持続可能な未来の担い手づくりにむけて、国連は、2005年から「国連・ESDの10年（2005-2014）」を実施しました。本国連プログラムは、UNESCOが主導機関となり、世界的に実施・展開されたプログラムであり、現在もSDGs達成年（2030年）に向けて、その国際的取組が継続しています。講演者（佐藤）は、そのプログラムの当初からかかわり、多様な主体との連携の下でプログラムの企画・立案や実施を行ってきました。

本セッションでは、これまでの「国連・ESDの10年（2005-2014）」を振り返り、その知見を共有するとともに、近年、学校種や分野・領域を超えて注目がなされている「探究」について議論を深めます。とりわけ、「探究の高度化」、「探究の自律化」について取り扱い、講演者（佐藤）が開発した「WW型問題解決モデル」を紹介します。第2部では、東松島におけるESDの取組を中心に事例報告を行う。

【対象】：自治体、企業、教育・研究機関、市民団体、一般市民など

【会場】：オンライン（ZOOM）にて実施

【参加費】：無料

【事前申込リンク】

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_0HTJ55stQYGIH3iQjV5CzQ

【定員】：300名

（定員に達し次第〆切／応募者多数の場合は先着順とさせていただきます）

【後援】：東北環境パートナーシップオフィス

お申込みは
こちら

